ＪＩＳ Ｑ １０１１ 分野別認証指針				社　内　規　格　例														
工程名	管理項目	品質特性	管理方法及び検査方法	マスターＯ．Ａ方式							マスターＭ．Ｋ方式							
１.配合	１’ a) 細骨材の粗粒率 b) 粗骨材の粗粒率又は実積率 c) ｽﾗｯｼﾞ固形分率及びｽﾗｯｼﾞ水の濃度 d) 細骨材の表面水率（人工軽量骨材の場合は含水率） e) 粗骨材の表面水率（人工軽量骨材の場合は含水率） f) 計量配合の指示方法 (必要な場合)	―	１''' 細骨材の粗粒度，粗骨材の粗粒率又は実積率，スラッジ固形分率及びスラッジ水の濃度，細骨材の表面水率（人工軽量骨材の場合は含水率），粗骨材の表面水率（人工軽量骨材の場合は含水率），単位水量(高強度コンクリートの場合)，再生骨材Ｈとその他骨材を併用する場合の使用比率	工程	管理項目	検査頻度	検査方法	判定基準	不合格の処置		工程	検査項目	試験方法		頻度	時期	判定基準	不合格の処置
				配合	細骨材の粗粒率	1 回/日	JISA1102	2.80 ± 0.20	①配合設計標準(B-2)により標準配合の修正を行う ②製造業者に連絡して原因調査及び品質改善を依頼する		配合	表面水率	細骨材	JISA1111	2 回/日	午前/午後	実測値を用いる	測定結果を表面水補正装置にセットする。 但し、異常と思われる時は再試験を行なう
					粗骨材の実積率	1 回/週	JISA 1104	2005　62.0 ± 2.0 % 4005　63.0 ± 2.0 %	①配合設計標準(B-2)により標準配合の修正を行う ②製造業者に連絡して原因調査及び品質改善を依頼する ③必要に応じて混合比率の変更を検討する				粗骨材	JISA1803	2 回/週 及び 降雨時	原則として月曜日の始業時に実施	1505：0.5 ± 0.25 % 2010：0.5 ± 0.25 % 4020：0.5 ± 0.25 %	1)判定基準をこえる場合は、現場配合補正を行なう(D-4-2) 2)固定値として、安定するまで検査を繰り返す
					表面水率　細骨材	2 回/日	JISA1111	0 ～ 10 %	水切りを行ない、表面水が安定するまで別のｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞのものを使用する			粒　度 ・ 粗粒率 （ＦＭ）	1.JIS A 1102 2.単品で検査を行い、標準の計算合成で判定を行う。		1)細骨材 １回／日 2)粗骨材 実積率検査で不合格時に実施	1)細骨材 朝一番 2)粗骨材 実積率検査で不合格時に実施	1)粗粒率 細骨材 2.80 ± 0.20 粗骨材 2005　6.70 ± 0.20 4005　7.25 ± 0.20 2)粒度分布の通り	1)現場配合補正を行なう（Ｄ－４－２） 2)恒久的に外れる場合は、示方配合変更基準による（Ｂ－７－２）
					表面水率　粗骨材	1 回/週	JISA1803	1505　0.5 ± 0.2 % 2010　0.5 ± 0.2 % 4020　0.5 ± 0.2 %	表面水補正装置に実測値を設定する			実積率 (粗骨材のみ)	1.JIS A 1104 2.合成品は合成後検査を行う。		１回／週	原則、 月曜日に実施	2005：57.0 ± 1.5(%) 4005：60.0 ± 1.5(%)	1)現場配合補正を行なう(Ｄ－４－２) 2)粗骨材のふるい分け試験を行い　合成比率の変更を行なう校正。 3)恒久的に外れる場合はは、示方配合変更基準による（Ｂ－７－２）
					計量配合の指示方法	配合設計標準(B-2)の９．及び１０．による												